

# ちば通研だより No.496

千葉県手話通訳問題研究会（発行責任者）米田 市子（編集者）渡辺 正夫  
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内  
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

## 優生保護法

### ～最高裁大法廷 弁論 開かれる～

2018年に宮城県の2人の原告が仙台地裁に優生保護法下での強制不妊手術は憲法違反だと、国に損害賠償を請求する訴訟を起こしました。それをきっかけに全国で優生保護法の裁判が起きました。

この問題について、全日本ろうあ連盟は2018年3月に聞こえない人の実態調査を始めました。各地での裁判を支援する会や団体の活動も高まり、優生保護法裁判の勝利と優生保護法問題の全面解決をめざし、2022年5月10日に「優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会（優生連）」を立ち上げ、全日本ろうあ連盟も加盟しました。

優生連は、署名活動をするとともに全国集会を開催してきました。また、数回の院内集会を開催してきました。

そして、最高裁は5つの裁判（原告が逆転勝訴した高裁判決：2022年2月大阪、同3月東京、2023年3月札幌、同3月大阪（兵庫訴訟）及び原告が敗訴し上訴している2023年6月仙台高裁判決）を審議する大法廷回付が5月29日に開催されました。

全通研はこの優生保護法の最高裁大法廷回付での弁論を多くの仲間を参集して支援していくことになり、関東ブロックを中心に呼びかけを行い、当日は多くの仲間が参集しました。

この大法廷回付について報告します。（2ページに掲載）



6月26日時点でのちば通研の会員数は299人  
（読者会員会員数は12人）  
2024年度の目標数は330人です  
数は力！みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク  
愛称は「ふいーる(feel)」です。可愛がってね。

## 最高裁大法廷 弁論

5月29日（水）は、朝9時に入廷行動が最高裁判所正面入口にて行われました。9時30分に午前の裁判の整理券締切があり、140人ほどの支援者らが法廷に入りました。公的な配置ではありませんでしたが、法廷内に手話通訳と要約筆記が付きまして。最高裁としては初めてとなる障害者に対する合理的配慮がなされての弁論でした。

傍聴に外れた人は、衆議院第一議員会館大会議室で映像を見ながら報告集会を待ちました。午後は1時に整理券が締め切られました。午前中よりもたくさんの支援者が集まりました。

ちば通研からも多くの参加者がいました。2人の感想と合理的配慮の紹介を記載します。

### 午前の裁判の部

大法廷の傍聴券、くじ運の悪い私としては神の恩寵と言いたくなるような幸運で手にすることが出来ました。そんな高揚感と緊張感は被告である国側の主張を聞いているうちに一気にしぼんでしまいました。

国側としては、除斥期間を硬直的に適用し「損害賠償請求権」は消滅していると主張してくると思っていました。ただ「除斥期間を適用することで（請求権が消滅すること）で著しく正義と公平に反する場合は例外的に適用しないが、本件はそれには該当しない」と当然の様に言い切ることは到底納得できませんでした。国側は国民を代表する国会で決められた一時給付金で解決していくのが適切であると主張していました。強制不妊のような悲劇が「著しく正義と公平に反するとは言えない」なら、どういう状況なら「正義と公平に反する」というのでしょうか？ また、一時給付金を申請する被害者の少なさを知ろうとしたのでしょうか？ 障害者差別解消法の施行後の現代ですら、この状況です。まして高齢である原告の方々が若い頃に「国に対して損害賠償請求の裁判を起こす」ことの困難さは想像に難くありません。その点について国は何の説明もしていません。

原告側の弁護士さんたちは、決して感情を煽るような言い方はされませんでした。それにすでに知っている事件であったのに、口頭弁論の間、涙を禁じえませんでした。

たまたまお隣になった方（多分手話関係の方）の「国側の主張は本当に腹が立つわね」のひとつで感想は集約されます。

（ICT ちば代表 山田 尚子）

### 午後の裁判の部

国民が注目していますよというアピールに役立たちたい気持で参加しました。整理券を受け取り締め切り時間まで1時間以上立ちっぱなしでした。虚弱体質？ の私にとっては足、特に膝が辛く団塊世代の根性で耐えました。

幸運にも傍聴する事ができました。でも長い階段を見上げた時はため息。エレベーターもあったようでしたが、その時は知りませんでした。全ての荷物をロッカーに入れ身体検査を受けました。傍聴席には私の席に色が塗ってあり分かりやすかったです。

最高裁判所長が目の前の扉から現れると全員起立で頭を下げるという冒頭での諸注意がありました。敬意を表する気持ちと何故？ 対等ではないの？ という気持ちもありました。裁判官15人。手話通訳、要約筆記。記者の方々。カメラマンは最初だけ。

原告の方々の生の声を伺い大切な人生を奪った国の責任は許せないと怒りがこみ上げてきました。弁護団の力強い弁論に比べ「除斥期間」の言葉を言い放っただけの非情な法務省。障害者、高齢者も訪れる最高裁判所の配慮を係の方に伝えたせいか、帰りは迷路のエレベーターまで案内してくれました。最後に配慮を感じて笑顔(笑)

（印西班 宇治 昌子）

## 最高裁における合理的配慮

5月29日(水)に行われた優生保護法の最高裁大法廷における合理的配慮について簡単に紹介します。最高裁が障害者への合理的配慮を行うのは初めてのことだそうです。

### ①西門から入り抽選を待つ場所

建物の中、駐車場部分の一角にコーンが立てられ傍聴希望者が整列して待てるように準備。車いす、介助者同伴、一般傍聴者に分かれていた。手話通訳者も配置されていた。

### ②入廷

ロッカーに荷物を預ける。持って入って良いのは、傍聴券、ノート、筆記用具、カギ等の貴重品、ハンカチ程度。分かりやすく絵でも示されていた。

### ③配布された資料

「傍聴人の皆様へ 国家賠償請求事件について」と書かれた1枚の紙資料を手にとると「事件の内容・高裁判決と最高裁での争点」の全てにルビがふられていた。

### ④大法廷

傍聴席に向けて用意されていたのは手話通訳者が左右に2人ずつ、パソコン要約筆記者4人、大型のモニターが左右に2台ずつ。大型のモニターの1つはパソコン要約が映し出され、もう1台は原告や原告代理人が話す内容や話の流れなど、事前に用意された資料が映された。

### ⑤裁判中

裁判長を始め、全員が「原告代理人〇〇から発言します。」のように、誰の発言かが分かる配慮がなされていた。

今回、現場でさまざまな障害のある人たちと出会った裁判所の職員さんたちが、要望されたことではなく、ご自身たちの気付きとして合理的配慮を考え、内から大きな変革を起こしてくださることをこの裁判の勝訴とともに祈りたい。(事務局長 折原 由紀子)

## 地域班会議・地区別会議 報告

6月2日(日)9:30~12:00、千葉市中央コミュニティセンターを会場に、第1回地域班会議を開催。参加者は役員を含めて38人でした。主な内容は以下のとおりです。

- 1 会員拡大…5月31日現在285人、読者会員11人。新規会員には会員登録書の提出をお願いしたい。「地域班活動の手引き2024」をよく読んでください。
- 2 地域班講師派遣事業…2024年度は、鎌ヶ谷、松戸、習志野、流山、市原の各班に決定した。予算の関係で、2024年度から対面での開催を基本としてハイブリッドでの配信も考えて再開する地区講座と合わせて10回を限度として開催する。
- 3 地区別会議…11:00~11:30、地区別会議を開催。報告の中で、六つ星班に続く新しい地域班の発足を促すことや南総地域学習会で内房、外房、安房地区と3つの連絡会が立ち上がったなど、説明があった。

※今回は対面という事で、皆様の顔を見て、会議が進められました。

距離が近く、皆様の熱気を感じることができて良かったです。議題の中で、優生保護法訴訟、けいわんの問題など、全通研としても取り組んでいる課題で、深く考える機会となりました。研究誌168号の特集「優生思想と優生保護法について考える」をご覧ください。

次回の地域班会議は、9月1日(日)オンラインの予定です。

(組織部 鶴澤 恵子)

## 「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol. 4

### 「つくる会の歩み」

平成12年11月16日、さわやかちば県民プラザにて、千葉県聴覚障害者連盟の評議会において「ろう重複の施設づくりの取り組みについて」協議しました。

施設を建設するためには、まず、母体としての法人格のある団体が存在すること、資金として1千万円が必要であること、そして、経営実績を千葉市から求められていました。

そのため、平成12年11月23日に決起集会を開催して、千葉県聴覚障害者連盟、全通研千葉県支部、千葉市聴覚障害者協会、ろう重複者を持つ親の会の4者で情報提供施設づくりと法人格取得の運動を進めることを決定しました。

そして、平成13年10月7日に、ろう重複者を持つ親の会が正式に「親の会（“わ”）の会」と名称変更しました。“わ”の意味は、手話の「話」、仲間の「輪」という思いが込められています。

平成14年5月14日に、「千葉県ろう重複障害者施設をつくる会」（以下、「つくる会」とする）として発足し、会員募集や募金活動を開始しました。皆さんご存じの「竹筒カンパ」と店頭募金箱、街頭カンパを各地で展開して行ったのがこの時期です。

「つくる会」は、4つの構成団体から各4人ずつ委員を選び、常任理事会を設置しました。また、聾学校との連携も欠かせないとい

うことから、千葉聾学校からも先生に加わってもらい定期的な協議の場を設け、熱心に取り組みました。また、幹事会と称して4者から1人ずつ選出し、方針を決定して来ました。

ろう重複施設の建設のため、事前に理解者を広げる必要から、行事ごとにボランティアを募集し、学習を重ねました。特に、キャンプを開催する前には、仲間との交流をスムーズに行うため学習会を開催しました。

このキャンプは毎年開催し、回を重ねるごとに仲間との関係をより深めていく機会になりました。

資金づくりは当面、1千万円を集めるため、先ほど言った竹筒、店頭募金箱、街頭カンパなどに勢力を注ぎました。

各地域でカンパをしてもらうために、地域のろう協、手話サークル、親の会のメンバーで実行委員会を組織して取り組みました。

駅前の街頭カンパでは、行きかう人たちに「ろう重複」について説明をして施設の建設の必要性を訴えました。

そして、皆さんのご協力で、平成18年についに1千万円を集めました。

その結果、8月に千葉県聴覚障害者連盟が法人格を取得して、社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会となりました。

次号は、千葉市のワークホーム制度を活用した取り組みの状況をお話しします。

（飯泉 よし江）

次回に続く⇒

# 特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL.7

## 「川根三男会長との思い出」

鎌ヶ谷班 黒岩 史郎

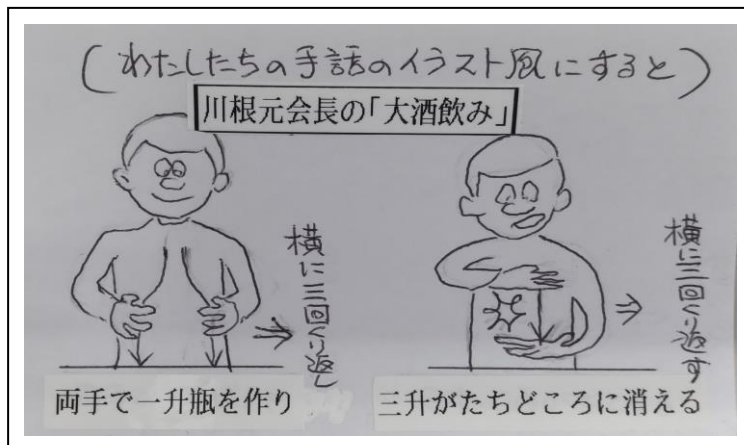
お酒にまつわるエピソードには事欠かなかった前千葉県ろうあ団体連合会の川根三男さん。お酒はあまり強くなかった（すぐ顔に出るタイプ）のかも知れませんが、お酒大好きの方でしたので、会合や講演会が終わると、地元の方たちが必ずと言っていいほど酒席を用意されることが多く、私は何回かその「おこぼれ」に預かりました。もう40年近くも昔の話です。

私は県の集会の実行委員会の時（当時私が事務局長だった）や県内の各地の講演会の読みとり通訳としてご一緒する機会が多かったです。晩年、私は「地方巡業(どさ廻りの旅)」で県内各地をかなりの数ご一緒させていただきました。通訳として指名していただく機会も多かった気がします。川根さんの手話は、一言で言うと「豪放磊落」な魅力溢れる手話。近年あんなに生き生きした伸びやかな手話はめったに見られなくなってしまいました。

たしか茨城の造り酒屋の家に生まれ育ったと「生い立ち」の講演で何回かうかがいました。川根さんの手話は、まるで絵画のようないわゆる「伝統的手話」。手話の初学者の人にも視覚的にぱっちり意味が伝わってしまう、それはおおらかで魅力あふれる手話でした。

なぜ川根会長の手話はあれほど明快で分り易かったのだろうか？と今改めて思い起こしてみると、その特長のひとつに手指の大きさがあったと私は感じています。川根さんは体格の割に手のひらや手指が長くしなやかで、まさしく「手が語る」を实践された方でした。川根会長の手話は、全通研本部の研究誌に連続写真等で残されていますが、千葉でももっとあの貴重な手話を映像や写真でたくさん残しておけば良かったと悔やまれます（私が撮影した手話の映像ビデオはたしかどこかに残っています）。

川根会長は、県内各地の講演の講師や大会・イベントの来賓等大活躍で、豊かな顔の表情と手話は私の記憶の中で鮮やかによみがえってきます。中でも私の一番お気に入りの手話表現が「大酒飲み」。こんな表現を私は後にも先にも見たことがないので、私の臉に永久に焼き付いております。具体的に言うと、お酒（一升瓶三本）を表し、それを両手でパンパンパンと三回つぶしてあっという間に三升の酒がなくなっていくさまを見事に空間表現されたのです（絵にすると下のとおりに）。ご自身の体験が産んだ創作手話だったのかも知れません。





## 医療班コーナー

### 腰痛の治療

腰痛が起きた際はシップや塗り薬を購入することが多いと思います。

原因は様々ですが、痛みが続く場合は受診しましょう。

医療機関で処方される薬剤は、腰痛の原因や症状に応じ 内服薬(飲み薬)、外用薬(湿布剤、テープ剤、軟膏、クリーム、ゲル、ローション)、坐薬などの種類や形状があります。

腰痛の種類	薬剤・治療		目的
骨や筋肉の障害による痛み	消炎鎮痛剤※	湿布・テープ・塗薬・内服・坐薬・注射	痛み止め
	筋弛緩剤	内服	筋肉の緊張をほぐす
	血流改善薬	内服	血行の促進
	抗不安薬	内服	筋肉の緊張をほぐす
	ビタミン剤(B1・E)	内服	筋肉の疲労回復 血行の促進
	漢方薬	内服	軽度の腰痛に対する痛み止め
	神経ブロック	注射	痛み止め(骨、筋肉) 血行の促進 筋肉の緊張をほぐす
神経の障害による痛み	神経障害性疼痛治療薬	内服	痛みを伝える神経伝達物質の過剰放出抑制
	抗うつ薬	内服	神経への刺激を和らげる
	ビタミン剤(B6・B12)	内服・注射	神経の機能回復
	神経ブロック	注射	痛み止め(神経)
不安やストレスによる痛み	抗うつ薬	内服	神経への刺激を抑える
	抗不安薬	内服	不安やストレスの軽減

※消炎鎮痛剤は非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)が主に使われます。

その他、解熱作用もあるアセトアミフェン、オピオイド性鎮痛薬(モルヒネなどの麻薬)などもあります。

医療機関で処方された薬は患者本人のみが正しく使い、他の人にあげない。  
腰痛予防や治療を継続しましょう。

**医療班では出前講座・押しかけ講座 あります！！**  
**ご相談お待ちしております**



# e ~ 会報

2024年6月20日発行(第197号)  
発行: 一般社団法人全国手話通訳問題研究会  
〒602-0901 京都市上京区室町通今出川下ル繊維会館内  
電話: 075-451-4743 / FAX: 075-451-3281  
メールアドレス: NRASLI@zentsuken.net

## 2024年度代議員会を開催!

~組織や活動方針等について活発に議論~

5月25日(土)~26日(日)に、神戸市のこうべ市民交流センターで2024年度代議員会を開催しました。全国から代議員114人(定数127人)が出席しました。

1日目は、会長挨拶、決算報告、監査報告に続いてブロック別会議の報告、議案書修正と役員改選について提案がありました。次に能登半島地震について、西代議員(石川支部長)と桐原理事から被災地の状況や支援等の説明がありました。課題別討議では「全通研の組織見直し」についてグループ討議を行いました。全通研活動をさらに発展させていくため、現状の課題を踏まえて部局の編成や事業をどのように進めるのが良いか等、グループで意見を出し合いました。



2日目は、事前に提出された発言用紙を基に議案書討議を行いました。述べ54人の代議員から発言があり、健康普及員、サマーフォーラム、組織拡大、ろう者による通訳、情報発信など全通研の多くの事業について、さまざまな意見や質問が出されました。討議終了後に採決を行い、すべての議案が賛成多数により可決されました。採決終了後、特別決議「ウクライナ及びパレスチナ地域における即時停戦を求めます」、「優生思想のない社会と優生保護法訴訟の原告の勝訴を求める」の提案があり出席者の拍手により採択されました。最後に退任する理事と新任理事の挨拶、サマーフォーラム in かごしまの呼びかけ、そして創立50周年記念事業の説明を行いました。

創立50周年を迎えた2024年度の代議員会を通して参加者全員が全通研活動とともに盛り上げようとする気運を高めることができました。

(代議員会の詳細は、6月末に発行の会報96号に掲載)



### ★石川 芳郎 参与が厚生文化賞を受賞!

6月8日に和歌山県で開催された全国ろうあ者大会で石川 芳郎 参与(前会長)が厚生文化賞を受賞されました。全通研創成期から役員・会長として、ろうあ運動や聴覚障害者福祉関連の事業に大きく貢献されたことが受賞理由です。



(受賞する石川参与)

### ★田門 浩 弁護士(ろう者)が国連の障害者権利委員に選出!

国連障害者権利委員会の委員に立候補した田門 浩 弁護士が6月11日に国連本部で選出されました。世界の障害者の権利を守る活動に当たることになります。

立候補の理由の一つに、「東日本大震災で同じ障害者が情報入手に苦勞し、支援した経験から国や人とのつながりを大切にしたいと考えた」とのことです。

## 第72回 全国ろうあ者大会 in 和歌山 報告

6月7日から9日の4日間、和歌山城ホールなどを会場に研究分科会、演劇祭展、青年のつどい、日帰りツアー、展示が開催されました。全国から2500人の参加がありました。千葉県からもたくさんの方が参加しました。

前夜祭はダイワロイネットホテル和歌山で約200人集まりつどい交換パーティが開かれました。ここでは、「鮪の解体ショー」が行われ、参加者の目の前で鮪がさばられました。鮪はお寿司になって参加者に配られました。

また、9日の最終日は生憎の雨が降ってしまいました。ビックホエールを会場にしてオープニングセレモニー「木の本の獅子舞」が披露されました。とても激しい動きの獅子舞でした。

大勢の来賓をお迎えして式典が開催されました。石野理事長は、あいさつの中で15年間の理事長の職を退任すると発表がありました。

式典後に久松事務局長から1年間の活動を総括した話がありました。また、新しい理事の体制が発表され、新理事長に鳥取県の石橋大吾さんが決定しました。



(広報部長 渡辺 正夫)



VOL.5

### わっこ (矢吹和夏子) 今月のオススメ!



『Noricoda 波乱万丈』 1,760円

コーダ(ろうの親をもつ聞こえる子)である著者：宮澤典子氏の波乱万丈の半生を知ることができました。宮澤氏は幼少の頃から聞こえるがゆえに、さまざまな悩みを抱えていました。共生社会とは何か。を改めて考えさせられる1冊ではないかと思っています。最近、映画やテレビドラマでコーダを取り上げた作品が多いのも事実です。皆様もろう者を理解したい、コミュニケーションを取りたいと日々研鑽していると思います。以前通研講座で講師をしていただいたのでご存知の方も多いとは思いますが(残念なことに私は参加できず)是非、お薦めしたい1冊です。現在、勉強中の方、手話通訳レッスンDVDの紹介や手話通訳の学習方法等も掲載されておりますので手に取ってみてください。

※申込は、ちば通研事務所まで アドレス syuwa@nifty.com  
◎ちば通研では書籍等で販売による売り上げの一部をちば通研の活動に充てています。ぜひ、ちば通研から書籍等を購入頂けるようお願い致します。  
少しお時間が掛かり待ち遠しい気分ですが、ワクワクしている時間も大切です。



# ろう教育班コーナー

聾学校の運動会が5月25日(土)に行われました。この週は雨が多く、天候が不安定でしたが、当日は天気恵まれ、朝早くから職員が出勤し、テント等の準備をしました。当たり前だとは思いますが、子ども達は運動会をとても楽しみにしています。誰が紅組か白組か、誰が応援団をやるのか、自分の係は何にしようかなど興味・関心がつきません。保護者の方々も自分の子どもの成長が一番良い場所で見ようと、すぐに保護者場所(席)は一杯です。

私が小中学生の頃を思い出すと多少は楽しみでしたが、高校生になるとまったく興味がなく、わざと遅刻して運動会(私の学校は体育祭)には参加しませんでした。

当時の種目は、一般的に徒競走、騎馬戦、棒倒し、綱引き、応援合戦等でしたが、今は徒競走、応援合戦は残っていますが、障害物競走的な種目が増えているように思います。人気があった騎馬戦、棒倒しは、全国的に少子化の影響と、けがや事故の恐れがあるのでこの学校もなくなったようです。

また聾学校ではコロナの影響で保護者及び卒業生等の参観ができなかったり、保護者に人数制限を設けたりしていましたが、昨年度から参観が普通に認められるようになりました。そこで今年度は保護者、卒業生、職員そして一般の方々による綱引きが行われました。次の日、皆さんの足腰は大丈夫だったでしょうか。私はけがを恐れて棄権しました。

最後に小中高の各学部から選ばれた選手による紅白リレーは盛り上がりました。私は足が遅いので徒競走は苦手ですが見るのは好きです。児童生徒のひたむきさ、一生懸命なところが面白く感動します。

来年はデフリンピックがあります。この児童生徒の中から日本代表選手が選ばれるのを楽しみにしています。  
(ろう教育班長 上條 文裕)



## 読みたい見たい

2024年6月号(第116号)

一般社団法人全国手話通訳問題研究会  
 Tel:075-451-4743/Fax:075-451-3281  
 E-mail: NRASLI@zentsuken.net  
 URL: https://zentsuken.shop-pro.jp/  
 Facebook: 全通研(zentsuken)  
 Twitter: @zentsuken\_1



手話でつながる **世界のあいさつ**

民族衣装の子どもたちが登場して  
それぞれの国の手話でごあいさつ!



判型/B5判長型 24ページ 販売価格/1,760円(税込)  
 企画・編集/全通研 絵/見杉宗則 発行/クリエイツかもがわ

手話を学ぶ人たちの学習室 — 全通研学校講義集 —

**手話通訳者のための言語学と人権**

- ◆基礎から学ぶ言語学 (小嶋 栄子)
- ◆手話通訳活動から考える人権 (石川 秀郎)



判型/四六判 155頁 定価/1,153円(税込)

**手話で伸びる子どもの力と障害者の福祉制度改革**

- ◆聴覚障害児にとっての手話 (南村 洋子)
- ◆障害者福祉の制度改革 (藤原 精吾)



判型/四六判 137頁 定価/1,153円(税込)

企画/全通研 編集・発行/文理閣

9

全通研創立50周年記念 キャッチコピー 「50年の絆その先へ 歩み続ける全通研」  
 ちば通研Eメールアドレス syuwa@nifty.com

**私のイチオシ**

…船橋班…

私が手話を学び始めて20年以上になります。そんなに長く続けられた理由のひとつ、それは手話を学び始めて間もない頃のことでした。あの頃は、サークルが終わると必ずみんなでファミレスに行き、お茶を飲んだりご飯を食べたりしていました。聞こえる人も聞こえない人も、一緒に楽しい時間を過ごしていました。本来なら、生の手話を学べる絶好の機会なのですが、手話初心者の私は全く会話の中に入ることができませんでした。帰り際にサークルの仲間のひとりから「今日はどうだった？」と尋ねられました。私は「私だけ手話がわからなくて、一人ぼっちの気分で寂しかった。」と答えました。すると「聞こえない人って、いつもそんな中にいるんだよね。」と言われました。私はハッとしました。それまで、そんなことは一度も考えたことが無かったのですから……。それからは、聞こえない人がいる時には、手話でも身振りでも口話でも、必ず伝える努力をしようと心に決めました。それが今につながっているのです。(K.S)

最近、聞こえない人がいろいろな場面でメディアに登場しています。そんな中での私のイチオシは、森田明さんです。みなさんご存じのように、森田さんは明晴学園で子どもたちの指導をしています。前に、あるテレビ番組で、詩人の草野心平の「春のうた」を指導している様子を見ました。子どもたちは詩の情景を、手にのせて生き生きと表現していました。それはもう、私たち大人には到底真似できない手話でした。それを引き出していたのが森田さんです。

私は小学校の教師です。文から読み取ったことを、音読や身振りで表現することを学習に取り入れています。「手話」と「音声言語」、言語は違うのですが、聞こえない子どもたちも聞こえる子どもたちも、同じ目あてに向かって学習しているのだな、と感じました。

それにしても、あの素敵な表現を引き出す森田さん。同じ教育者として尊敬しています。なので、私のイチオシは森田明さんです。(K.S)

これといって推しのない生活をしている自分。「私のイチオシ」というテーマを頂きふと思い浮かんだのは「ガス乾燥機」。3年ほど前になるが、毎日大量の洗濯物を干していた近所のお宅のベランダから洗濯物が消えた。聞けばスバラシイ家電を購入したという。工事費もかかるし場所も取るのでしばらく迷ったが、そんなに素晴らしいのならと思い切って我が家も購入。これが本当に素晴らしい働きをしてくれる。家族4人分の洗濯物が90分ほどで乾く。マットや厚手のデニムもパパッと乾いちゃう。使いこんだゴワゴワのタオルだって柔軟剤シートと一緒に放り込むだけでフワフワの仕上がりだ。雨の日だって関係ないし部屋干し臭も気にしなくていい。なにより洗濯物を干さなくていいのだ。一個一個ピンチにぶら下げていく作業をしなくていいのは本当に嬉しい。あーもっと早く買えばよかった。私にとってコスパもタイパも最強のイチオシ家電。ただ一度、表示を見誤りお気に入りのカーディガンがつんつるてんになってしまったのはショックだったけど。(てるてる坊主)



## 地域班通信

流山市:市内の仲間が亡くなった。まだ50代。ずいぶん前私が学生か、社会人なり立てかの頃に手話サークルに来た彼は、その後国リハの学生となり、しばらくぶりに帰ってきた。ちょっと変わってるけど(まあみんなそれなりに変わってるし)通訳として研鑽しあえる仲間だった。仕事がかかなり大変そうだったが、そろそろ落ち着いて活動に参加できると言っていた矢先。本当に残念。合掌

富里班:CODAの私は昨年かから聾者のバドミントンチームに混ぜてもらい月に3~4日ほど練習をしています。両親以外の聾者と会話する機会がゼロだった生活から、しっかり手話を使って相手と意思疎通をする場面が増え、今まで手話の勉強を怠ってきたなど実感する日々です。手話もバドミントンも上手になれるよう少しずつ楽しみながら頑張りたいと思います。(MH)

市原班:読めない本と諦めていた『みんなが手話で話した島』の文庫本が出たと知り購入。夢中で読みました。裏表紙にあるとおり「障害、言語、共生社会とは何か深く考えさせる本」です。皆同様に手話を使って「育ち社交し結婚し生計を立て政治に参加する」理想の社会が島にありました。「ただ聾というだけ」障害を個性と受け止めていたんですね。

船橋班:夏の夕暮れ、全てが青く見える時間帯があります。昼と夜の境目に起きる幻想的で不思議な現象。これはプルキニエ現象という視覚のメカニズムらしいのですが、青い世界に身を置くと幸せな気持ちと物寂しい気持ちが入り混じった優しい気持ちになれる気がします。今年も梅雨から夏にかけて猛暑の予報ですが、暑さを避け青い夕べに繰り出してみてはいかがでしょうか。(S.M)

白井班:先日父の畑にある井戸水の水質検査をやってみました。水を検査センターに提出してから10日ぐらいで結果が届きました。飲料水として使用するのにいろいろな検査項目は問題なく、水質基準に「適合」となっていました。これで安心して収穫したものをその場で洗って食べれるし、夏に孫と水遊びができるのでやって良かったなと思いました。

わかしお班:先日、茂原市で福祉こどもまつりが行われ、地元のろう協と、近隣手話サークルのみなさんと一緒に手話の体験コーナーをやりました。こんにちは、などの簡単な挨拶や、バケツの重さなどの表現や、動物の手話などを子供たちに体験してもらいました。100名以上の子供たちが参加して、みんな楽しそうに学んでいました。それにしても、子供たちの覚えるスピードは早いですね。僕も負けずに頑張ります!(YK)

鎌ヶ谷班:私「手話を楽しむ会」に入会して1年たちました。手話って聴障者のものと思っていたけれど、私も自然に聴障者になっていたのです。この会員は全員難聴者です。みんな将来を見越して手話を学んでいるのです。あなたも入会しませんか。(AO)



千葉市班:最近、長い時間本を読むと疲れる…。5年ぶりに老眼鏡を買い替えました。そこで一念発起し古本を処分。これで家が少し軽くなったと思ったのも束の間。ろうの写真家齋藤陽道著の「よっちぼっち」を見つけ早速購入(齋藤さんと妻まなみさん、聞こえる子ども2人の日常を描いた育児書です)。また、本が増えていくかも💧

八千代班:平日・予定なし・快晴。そぞろ神が囁いた。「葛西臨海水族館に行こう!」。インドア派を自認。でも、今日のおでかけは億劫じゃない。気の向くままに展示を見る。普段なら斜め読みの説明をしっかりと読み、じっくり観察。アミメハギ・アメフラシ・タコクラゲ。観覧車にも乗って大満足。ソロも楽しいものだ。

六つ星班:5月から、通訳Iの講座が始まりました。他のみんなは、上手に出来るんだろうな～、付いていけなかったらどうしよう… あれこれ考えながら臨んだ1回目! みんな同じ不安を持ち、同じ目的を持った人たち。まだ、始まったばかりですが、共に支えあい相談できる仲間をたくさん作っていきたいと思います。頑張るぞ!

海匠地域班:富浦のびわ狩り、行ってみたいです。友人が、地元のびわも酸味と甘味と味があって美味しいと、言っていました。俄然、びわの木が欲しくなって来ました。庭に2本植えて、肥料をあげて、実が生り食べ、ワクワクします。でも、結実まで5年かかるそうで、待ってられるかな。

松戸班:6月の学習会では、研究誌の動画を見たり、「優生思想と優生保護法について考える」の記事を読みました。法律用語や難しい言葉もあり、1回読んだだけでは内容を理解するのは難しく、何回かに分けて勉強できれば良いなと思いました。冒頭でやった「見だめ、聞きだめ」では、前の人が言った花の名前を覚えて順番に言っていくのですが、テンポ良く言ってもさっき言った花の名前がなかなか思い出せず… さびついた頭の良い体操になりました。

市川班:夏も近づく八十八夜…、これから田植えの季節。新米を楽しみにしてる方も多いかと思います(母方が安房鴨川なので長狭米ですね)。自分とりあえず日本国籍を持つ日本人なのですが、お米の味が全く分からないのです。新米も古米も全く分からず、日本人としてどうしたものかと。どなたかご教示いただけませんか?

八街班:6月15日に市協会メンバー4人とサークル・通研メンバー4人で市行事のふれあいスポーツ大会に参加しました。新聞紙で風船を運んだり、玉入れ等に参加して楽しい時間を過ごしました。スポーツは良いですね。競技が終わるとみんな笑顔。充実した時間を過ごしました。

習志野班:5月には手話サークル恒例の行事で、高齢、または一人で旅行に出かけられないろう者数名とサークル員とで「しおさい旅行」に行ってきました。今回は、初めての体験で甲冑を身に着け、少しの間過去にタイムスリップをしました。久留里城の近く新緑の美しい場所で、車椅子の人も歩行器を使っている人もみんなで甲冑を着て楽しいひと時を過ごすことができました。



役員短報
------

日時：6月2日（日）13:00-16:30

会場：中央コミュニティセンター

参加者：19人

<主な議題>

○三役

- ・ちば通研講座Ⅱについて

○広報部

- ・7月号掲載記事の確認
- ・ちば通研だよりデータ配信開始（6月）

○組織部

- ・会員拡大 2024年度会員目標は330人
- ・5月31日現在285人（目標比：▲45人）
- ・ちば通研だよりデータ配信希望者の申請促進 5月31日現在41人（役員13人 役員以外28人）

<部・班の報告>

○三役から

- ・5月10日 センター 3団体会議
- ・5月17日 センター

情報提供施設事業運営委員会

- ・5月19日 センター 新芽まつり報告  
出店と販売

- ・5月25日、26日 神戸市こうべ市民福祉交流センター 代議員会

- ・5月29日 優生保護法大法廷傍聴  
ちば通研からの参加者9人

- ・6月3日 デフリンピック気運醸成本部委員会会議

- ・7月27日午後、センターでイベント開催予定

○組織部

- ・地域班のZoom利用状況について

○N-Action ちば

- ・新規加入1人（六つ星班）

○研究部

- ・ちば通研集会について

○医療班

- ・健康対策班、医療班合同研修会

○健康対策班

- ・6月9日に班学習会を行う。
- ・健康普及員の全通研での開催は一旦終了。今後は地域で開催してもらう。やり方、講師の選出は全通研に確認し、講師の可否を確認する。

○TMG

- ・9月22日 10:00-15:00 川根紀夫氏の講演会（東金市ふれあいセンター）

○保育・子育て支援班

- ・5月26日 オンライン学習会を開催。

○労働班

- ・県協会の福祉・労働委員会とコラボしていく。

○事務局

- ・50周年記念グッズの支部在庫なし
- ・50周年記念誌は秋頃発売予定
- ・サマーフォーラムの受付開始

○後援会

- ・定期総会、新芽まつりへの出席、販売等ご協力に感謝いたします。
- ・7月14日フラメンコライブ開催

○関東手話通訳問題研究会

- ・7月28日文京区民センター 13:00～

今後の予定
-------

○7月7日（日） 役員会

N-Action ちば茶話会

○7月14日（日）、15日（月・祝）

医療班&健康対策班合同一泊研修

○7月23日（火） 広報部会議

○7月24日（水） 組織部会

○7月26日（金） サポーターズ印刷日

○7月27日（土） デフリンピック  
納涼イベント

○7月28日（日） TMG 学習会

関東通研支部代表者連絡会議

関東通研組織担当者会議

手話通訳士学科試験

## お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス  
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.coccan.jp>

QRコードでホームページに  
アクセスできます。

会員専用ページは

パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail : [syuwa@nifty.com](mailto:syuwa@nifty.com)

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は  
本名もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は7月15日(月)です。

E-Mail : [c-koho@c2ken.sakura.ne.jp](mailto:c-koho@c2ken.sakura.ne.jp)

FAX : 043-247-1201 (早朝・深夜は不可)

## 会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以下のとおりです。なお、申し訳ありませんが振込手数料はご負担ください。複数人まとめての納入は、全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円 (聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号 : 00120-4-708239

加入者名 : 千葉県手話通訳問題研究会

## けいわん110番

<医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座 (衛生学)

TEL : 077-548-2187

FAX : 077-548-2189

<仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX : 057-451-3281

\*何かありましたら、いつでも、ちば通研健康対策班に、ご相談ください。

FAX : 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練をしています。最近は、災害はいつ起きてもおかしくない状況です。そのため、会員の安否確認をよりスムーズにするため、専用のフォームを開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1Tct53>



## あ と が き

この会報が皆さんのお手元に届く頃、最高裁判所大法廷で優生保護法裁判の判決が出ます。期日は7月3日(水)、判決は午後3時の予定です。傍聴希望者は、午後1時45分が整理券配布締切時間です。当日優生連等主催で報告集会と記者会見があり、午後4時30分からZoomで参加できます。勝訴判決が出ることを信じています！(AK)

ちょっと油断があったかもしれせん。マスク暑いなあと外出時もしていなかったからか先日コロナに罹患してしまいました。3回目の罹患ですが基礎疾患があるため治癒までが長く苦しい思いをしています。今回は味覚障害もあり、食べることが大好きな私にとって1日3回の食事はつまらないものでした(泣)。やはり「健康第一」ですね！(YK)